



第11回 B：国際理解と国際協力

(1) 生活文化の多様性と国際理解

新しい産業で暮らしはどう変わる？

～現代の産業と生活～

監修・講師
高木 優

学習のねらい

産業のグローバル化が進んだ結果、買い物が便利になったり、市場が拡大したりするなど、メリットがある一方、課題や問題点もあります。実情を把握したうえで、EU（ヨーロッパ連合）が引き上げてきた国際基準の影響や、アメリカ合衆国がリードする情報通信（ICT）産業の可能性・危険性などについて考えることが必要です。

キーワード

多国籍化／グローバル化／市場の拡大／国外生産／文化や価値観／
産業の空洞化／価格競争／規制強化／EU（ヨーロッパ連合）／
コーデックス（食品の国際規格）／地域統合／シェンゲン協定／
国境通過の自由／国際的な分業／単一通貨ユーロ／デジタル単一市場／
情報通信技術（ICT）／デジタルツイン／サンベルト／シリコンヴァレー

グローバル化する現代の産業

グローバル化がすすみ、インターネットを介して、世界中からモノを買うことができるようになりました。このように便利になった生活の背景には、さまざまな企業が多国籍化、グローバル化しているということがあります。グローバル化のメリットの一つは市場の拡大です。日本の自動車メーカーを例に挙げると国内だけでなく、国外でも生産しています。そうすることで、輸送コストや生産コストが削減され、その国の好みに合わせた仕様にすることができます。

しかし、グローバル化には課題や問題点もあります。国外の工場の労働環境を整え安全管理を徹底することや異なる文化や価値観に対する配慮をすることが必要です。また、産業の空洞化による雇用機会や税収の減少や過度な価格競争による企業利益の減少などは、労働者の賃金の低下や失業率の増加につながる可能性があります。そして、グローバル化が進む社会で最も大切なことは、世界にはさまざまな生活文化があり、その違いを認め合うことです。

地域統合が産業や生活に与える影響

EUは、1993年にEC（ヨーロッパ共同体）が発展して成立しました。EU全体では、名目GDP（国内総生産）総額で、アメリカ合衆国に及ばないまでも、中国とほぼ同じ規模となります。地域統合による変化として、国境通過が自由になることが挙げられます。EU加盟国の多くは、国境検査なしで国境を越えることができる「シェンゲン協定」の締結国です。EU域内では物の移動に関税がかかりません。それらを利用して、航空機メーカーでは、さまざまな国で分担して製造した飛行機のパーツを、フランスのトゥールーズの工場に運んで組み立てるという国際的な分業によって、世界シェアのほぼ半分を占める巨大航空機メーカーとなっています。

また、1999年に導入された単一通貨ユーロも、人々の生活に変化をもたらしました。

EUでは、食品の国際基準である「コーデックス」以上に厳しい基準を独自に設定するなど、世界の規準にも影響を与えています。さらに、個人データの保護や違法コンテンツへの対策を盛り込んだ「デジタル単一市場」の構築も進め、それを国際基準にするように提言しています。ほかにも、自動車の排ガス規制や原産地表示など、さまざまな分野で、EUの規準が影響しています。このように、グローバル化が進むことで、国際基準が設定され、それは私たちの生活にも影響していくのです。

情報通信産業が世界を席卷する

アメリカ合衆国で生まれた情報通信技術は私たちの生活にとって欠かせない存在となっています。そのなかで、「デジタルツイン」と呼ばれる、現実世界にある、物理的なモノから収集したさまざまなデータをコピーして、“双子のように”デジタル空間上に再現する技術があります。例えば、港に置かれている10万近いコンテナの位置のほか、コンテナを運ぶ車のリアルタイムの動きも克明に表示できます。大量のコンテナを、どのトラックでどのように運べば最も効率的なのか、全体状況を踏まえて判断することで、作業効率が向上しました。

このように、アメリカ合衆国の北緯37度以南の「サンベルト」と呼ばれる地域、なかでも、カリフォルニア州のシリコンヴァレーで中心に開発された情報通信技術によって、私たちの生活にも変化がもたらされています。一方で、新しい技術は、これまでなかった危険性をはらんでいる場合があります。特に、スマートフォンなどの位置情報や検索履歴から、個人のプライバシーが収集され、それが悪用される可能性も指摘されています。